

国民の森林クリーン月間における『重茂半島クリーン作戦』実施について

令和6年8月30日

岩手県宮古市 ^{ながほらやま}長洞山国有林 4林班

7月23日、林野庁で毎年7月に設定している「国民の森林クリーン月間」に合わせて、地元自治体や事業体と連携した、当署では初の取り組みとなる『重茂半島クリーン作戦』を実施したのでお知らせします。

重茂半島の国有林では、以前から国有林への不法投棄が確認されていたものの、ゴミの処理経費等の問題もあり処理されないままの状況でしたが、重茂半島で当署発注の治山・林道工事を受注している刈屋建設株式会社から、社会貢献事業の一環として不法投棄されたゴミの清掃活動に協力したいとの申し出があったこと、また、宮古市からもゴミの処分について協力いただけたことにより、今回、クリーン作戦を実施できる運びとなりました。

クリーン作戦実施にあたり、署長より「当署の悲願とも言うべき重茂半島クリーン作戦を実現できたことへの感謝、また、資源の再利用により持続可能な社会が構築されることや、不法投棄は絶対に許されないことをPRしつつ、関係機関と連携しながら再発防止対策を進めていきたい。」との主催者挨拶があり、続いて刈屋建設株式会社 向井田代表取締役社長より「重茂半島は宮古市のみならず岩手県にとっても貴重な「宝」。兼ねてより地元の宮古地域で社会貢献活動実施を考えていたところですが、今回の重茂半島クリーン作戦に携われることは願ってもない、ありがたい機会であり、今後も地域貢献に全力で取り組んで参りたい。」との力強い挨拶をいただき作業開始となりました。



開会式の様子



左：刈屋建設株式会社 向井田代表取締役社長
右：三陸北部森林管理署 葛西署長

当日は、作業開始前から最高気温が 30℃を越す中、刈屋建設株式会社 18名、宮古市 3名、署職員 21名、合計 42名が参加し、2班に分かれ清掃活動を行いました。

今回の作業場所は初めて清掃活動を実施するということもあり、錆び切った空き缶や空き瓶、ペットボトル等のゴミが多く、一時回収用ビニール袋が行き渡らない事態となったほどでした。その他にタイヤ、冷蔵庫、テレビ、看板、建築廃材等の大型粗大ごみも多数出てくる状況に、「ここまで酷いとは…」「ゴミが新たな不法投棄を呼ぶ状況」と驚きを隠せない参加者も多かったようです。

また、重量のあるゴミについては刈屋建設株式会社のユニック車・トラックと、経験豊富な作業員の皆様の活躍により何とか作業を進めることができました。



厳しい作業環境ではありましたが予定どおり進み、約1時間30分ほどの清掃活動で4tトラックに換算して約3.5台分ものゴミを集めることができました。

周りには集め切れなかったゴミもありましたが、清掃活動を実施した場所は見違えるほどきれいになり、参加者も達成感を感じながら清々しく大変気持ちの良い活動となりました。

今回のクリーン作戦実施を無駄にしないため、今後も引き続き不法投棄防止対策に取り組んでいきます。

